大阪 歯科保険医新聞

8/5

2023年第1466号

（毎月5、15、25日発行）

大阪府歯科保険医協会
発行人　和田　武
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-hok.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

戦火から逃れる人々と

中長期的な支援必要　口腔トラブルも

認定NPO法人Dialogue for People 副代表／ジャーナリスト　安田　菜津紀

ロシアによるウクライナへの侵攻から１年半。罪のない人々が爆撃の下で命を奪われ、住居や仕事を失っている。戦火から逃れる人々にも生活があり、命をつなぐための支援が待ったなしだ。そしてその支援は注目が集まっている国に対してだけでなく、各地の紛争で被災した人々すべてに求められているはずだ。戦火から逃れる人々を取材してきたジャーナリストの安田菜津紀さんに写真とあわせて寄稿いただいた。

「まなざしの格差」が存在

紛争や迫害から逃れてきた人々の支援と聞いて、真っ先に思い浮かべるのは水や食料、そしてテントなど、雨風をしのぐことができる場所の確保でしょう。初動の緊急支援としては、まず命をつなぐことに力が注がれます。大切なのは、「その後」です。戦争や弾圧といった、人の命を脅かすような事態は、残念ながらそう簡単には解消されません。長期に渡って終わりの見えない避難生活を送る人々が、今度はその「生活」の中で様々な問題に直面していきます。緊急的な住環境ではなく、どのように人間らしい暮らしを整えられるのか、子どもたちの教育の機会をどう確保していくのか――「歯」の問題も避けて通ることはできません。

①2022年6月、シリア北東部、猛暑に見舞われるワショカニ避難民キャンプ
②2023年3月、戦闘の爪痕が残るシリア北部、コバニの一角
③2023年3月、シリア北部、コバニの丘の上で出会った子どもたち

私自身は歯の健康について重点的に取材をしたことはありませんが、支援者たちの間でよく指摘をされる問題の一つです。

口腔衛生を十分に保つことができない環境だったり、度重なるストレスによって歯のトラブルを抱え、けれども十分な治療を受けることができないまま、悪化した末に別の病気につながってしまうこともある、と。だからこそ中長期的な支えが不可欠となってきますが、現実は、厳しいものです。

私が取材を続けてきた、中東・シリアでは、2011年から戦争が続いています。圧政に抗議の声をあげた人々に対し、政権は武力での鎮圧を試み、それが戦争の「発端」となりました。殺戮に終わりの見えないまま、国内にできた「力の空白地帯」では、いわゆる〝イスラム国〟のような過激派組織が勢力を拡大していきました。現在、シリアの北東部は、少数民族クルド人の組織が事実上支配を続けていますが、それを「脅威」と見なした隣国トルコが越境攻撃を加えるなど、事態は複雑です。

②

〝人道〟って何

昨年6月、コロナ禍で中断していた海外取材をようやく再開させ、私はシリア北東部へと赴きました。2019年のトルコによる軍事侵攻後に私たちが訪れたハサカ県ワ

③

大阪府歯科保険医協会2023年サマーセミナー

2024年度医療・介護同時改定に向けて歯科医療を考える

日　時　8月19日（土）午後3時～5時（開場・午後2時30分）

会　場　M&Dホール（定員60人）
現地開催のみとなります

講　師　田辺　隆先生
（全国保険医団体連合会副会長）

歯界

先生方は抗生剤の開発が激減しているのをご存知だろうか。私自身も恥ずかしながら最近『月刊保団連』の記事で知った次第である。

細菌は抗生剤に対抗して新たな耐性菌を生み出す。だからどうしても新しい抗生剤が必要になってくるのだが、開発には莫大な研究費が必要になるのと慢性疾患の薬と比べ投与期間が短く、あまり企業にとって儲けになりにくいそうだ。コロナ騒動が一段落したとはいえ、現状では古い抗生剤を騙し騙し使っているから、いつ抗生剤が効かない耐性菌が生まれても不思議ではない。新しいパンデミックが起こりかねない状態だと心配する科学者が多いそうだ。

今回のパンデミックで、日本ではワクチンの開発がとうとう出来なかった。外国製の物に頼らざるをえなかったが、副反応も結構きつかったのではないか。前もって日本で抗生剤を開発して欲しい。政府の援助はこういう時に必要ではないだろうか。（T）

お知らせ

本紙８月５日付は同15日付と合併して発行しました。

協会は11～16日まで夏季休務となります。